

(2) 貝類

琵琶湖に生息する淡水貝類は約40種あり、日本に生息する種類の約40%にあたる。そのうち29種が固有種とされており、なかでもセタシジミ、タテボシガイ、淡水真珠の母貝であるイケチョウガイは、水産上重要とされている。

貝類は他の水生生物と同様に、簡易の水質指標として利用されている。国土交通省が毎年行う水生生物を利用した水質の簡易調査では、カワニナは少し汚い水、タニシは汚い水の水質指標として紹介されている。

1970年代から、琵琶湖で生物学的水質が悪化していく過程で、セタシジミやカワニナが減少し、ヒメタニシが増加した。また都市河川では、生物学的水質が改善されていく過程で、ヒメタニシが増加した。(森下郁子編、川と湖の博物館より)

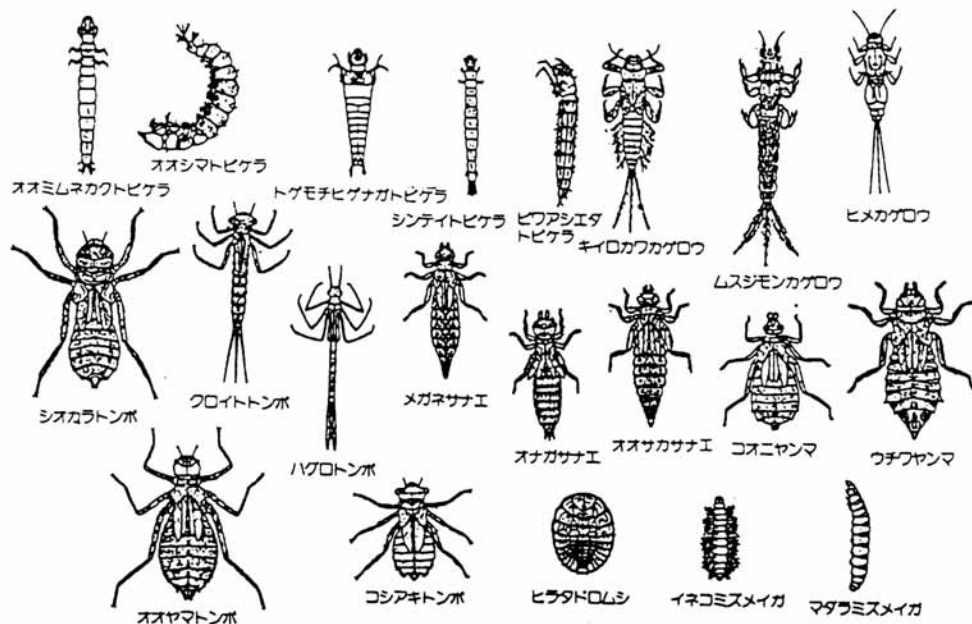
(3) 水生昆虫

淀川水系にはほぼ400種の水生昆虫が出現しており、琵琶湖だけでも280種もの水生昆虫が確認されている。

琵琶湖の水生昆虫は、トンボ類やカゲロウなど川の中・下流域に生息する種が多く、アミカやブユのような山地性の種はほとんど生息していない。(森下郁子編、川と湖の博物館より)

これらの水生昆虫は多様な環境に対応して住み分けをしている。例えば、湖北部の波が強い岩礁帯にはシロタニガワカゲロウ、コオニヤンマ、オナガサナエなどの流水性の水生昆虫が生息しており、沿岸水生植物帯にはトンボ類、カゲロウ類などの幼虫が生息している。

淀川で昆虫の数がもっとも豊富なのは三川合流地点、ついで枚方市の磯島付近である。これらの地域は、河川敷に灌木類が生え、豊富な植物が生い茂り、昆虫たちの理想のすみかとなっている。また、ワンドには、エサキアメンボやメガネサナエの幼虫(ヤゴ)など希少な水生昆虫が生息している。



【図4-3 琵琶湖に生息する主な水生昆虫】

出典：近畿地方建設局・水資源開発公団「淡海よ永遠に」